



客殿大玄関前での記念撮影

九月二十六日、真言宗智山派の僧侶育成機関である智山専修学院より、十九名の修行僧と引率の本山僧侶二名の総勢二十一名が参籠された。一行は、関東三天本山巡りの一環として、成田山新勝寺・川崎大師平間寺を参拝の後、高尾山へ来山された。

智山専修学院生 来山される

休憩の度に食べ物や飲み物が美味しく感じる様にもなっていました。不思議な感覚でした。最終日は深夜十二時に起床し、午前一時に山頂に向けて出発しました。二日目からずっと雨が続き、富士山の中も雲に覆われ、周りが殆ど見えないう状態でしたが、この日は好天に恵まれました。先輩からは「外は真っ暗だからライトを持ってください」と言われていたように、ライトを頭に装着し出発しました。この日は土曜日だったため、登山者が多く、山頂までの道に行列ができていました。たかさんのライトで道が照らされていたのでとても明るく幻想的な風景でした。

頂上に到着し、久須志神社にて参拝した後、御来光法薬を行いました。法薬後、小休止を取っている間、参加者はそれぞれ記念撮影をしたり、法螺貝の音をたてていました。頂上はまるで雲の上

にいるような圧巻の景色でした。膝を負傷しながらも登り切った甲斐があったと感じました。五合目まで下り、バスで移動し北口本宮富士浅間神社を参拝しました。その後、帰路につき大きな怪我もなく無事に参加者十二名が高尾山麓自動車折衝所に到着しました。飯沢執事導師により、柴燈護摩供をお勤めし、不動院まで練行し、無事成満となりました。今回、初の富士登拝修行を経験させて頂きました。この富士登拝修行では、参加者や事務局の方々に迷惑をかけないよう、日々努力してまいりたいと思います。

※締め切りは、七月末日とし、八月以降の申し込みは、来年度分とさせていただきます
〒一九三一八六八六
八王子市高尾町二一七七
大本山高尾山薬王院内
富士事務局



碑伝

七月三十一日〜八月五日 第十一箇度富士登拝修行記

法務課 来栖川 泰俊

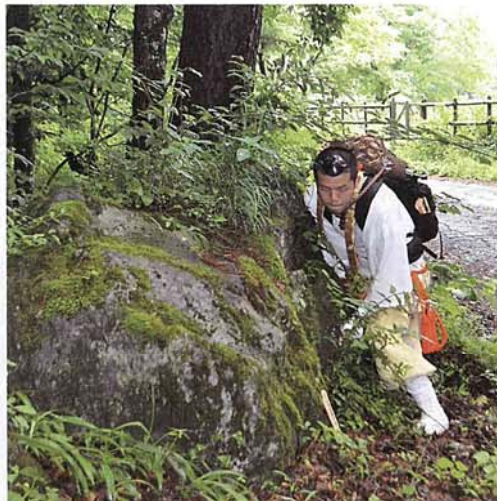
私は今回の登拝修行が初参加のため、先輩から「二ヶ月、二ヶ月前から高尾山を登ってトレイルニングしておいた方が良さぞ」と言われていたのも関わらず、「明日からやるよ」ということが続き、当日を迎えてしまいました。

五時には出立式を終えて、富士山に向け出発しました。高尾山頂から城山を経て、相模湖方面に下り歩いて行くのですが、普段から長時間歩くという事をしないので疲労が早く、軽い熱中症にかかっていました。

富士登拝修行の前日は高尾山にて前行を行いました。その内容は、滝修行にて身を清めた後に不動院から折衝殿まで練行し、柴燈護摩供を勤修した後、高尾山一号路から薬王院まで練行するという流れになっています。しかし、私は全くトレイルニングをしていなかったため、薬王院に到着する頃には疲れ切っていました。そして、富士登拝修行一日目がやってきました。

では、車道も歩くことがあるので、最後尾の我が車の接近を前の人に知らせる役をしていましたが、疲れと足の痛みでとても辛かったです。宿泊場所に到着し、部屋で衣帯を脱ぐと前日にできた足のマメが潰れており、靴擦れによってかかとに水ぶくれができていました。足の処置をして夕食を頂き、お風呂に入っていると、次の日から富士山に登るのが不安になってきました。

三日目は、馬返しという場所に向かう途中に、業秤の修行を行いました。業秤とは、地獄道の修行であり、不動石という大きな石を持ち上げることで自らの罪業の重さを量る修行です。罪業が軽ければ不動石は動き、逆に罪業が重ければ不動石は動きません。私も生まれてから二十三年間の業の重さを量る為、業秤を行うと、不動石は微動だにしませんでした。業秤の修行を終え、富士山五合目に向けて練習していくと、一合目に入る前に左膝を痛めました。歩きたびに膝に痛みが走り、それによつて少しずつ列から遅れてしまいました。二合目に向かう途中の休憩場所からは最前列を歩くこととなり、とても悔しい思いをしました。膝の痛みを堪えながら、なんとか富士山五合目の宿泊場所に到着しました。



業秤の修行で自身の罪業の深さを知る筆者

四日目は、富士山八合目まで歩きます。五合目から三合分登れば一日の行程が終了するのですが、初めは比較的楽な行程だと思いましたが、岩場が続く道が多く、膝も痛めているため、一か所一か所の休憩場所までの距離がとても長く感じて、とても辛かったです。休憩場所の山小屋では食べ物や飲み物が販売されているのですが、山頂へ向かうにつれて、だんだんと価格が上がっていくことに驚きましたが、